

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目

世界史

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年のⅡ・Ⅳで見られた資料問題や要約問題などの新傾向は本年も継承されており、新たな形式として定着するものとみられる。

〈特記事項・トピックス〉

まずⅠ・Ⅲの論述問題がともに現代史（戦間期）をテーマとした点が特筆され、特にⅠはグラフ・表を提示して答えさせる「世界史探究」を意識した問題であった。Ⅱ・Ⅳで出題された短文論述問題に解釈を求めるものが多かったのも、同じ傾向を反映しているのかもしれない。また、Ⅰ・Ⅲに加え、ⅣB も近現代史からの出題であったため、総得点の5割強が近現代史で占められることになった。

〈合格への学習対策〉

京都大学では、教科書的全範囲から出題される可能性があるから、時代・地域・分野を問わず教科書を隅々まで読み込んで、どこから問題が出されようが答えられるようにしておきたい。特に新傾向の問題は理解力が試されるから、単なる暗記ではなく、内容や歴史的文脈などにも出来るだけ注意を払うようにしよう。また、論述問題への対応を考えて、各地域の知識を「世紀」や「10年」（近現代史）単位で引き出せるように練習し、加えて頻出テーマも確認しておきたい。そして、手早く論述問題の答案が作成できるよう、夏期・冬期の論述講座や添削講座を受講して、問題文の読解方法や全体の構成を組み立てる技術についても習熟してもらいたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
Ⅰ	論述問題 (300字)	1910～20年代の中国における工業化進展の背景と具体的状況、およびそれが政治や社会におよぼした影響	グラフと表を参照させつつ答えさせるという新形式で、受験生にはとまどいがあったかもしれない。また、経済の動向をグローバルな視点や当時の社会の動きと関連付けて説明しなければならず、難度は多少高かったものと考えられる。	やや難
Ⅱ	記述問題 短文論述問題	A 13～16世紀の西アジアにおける騎馬遊牧民の役割 B 中国における大運河の歴史	ほぼイスラーム史であり、(5)(イ)は資料上の表現の意味を解釈させるものでやや難しかった。古代～清代の中国に関する標準的な問題であった。	標準 標準
Ⅲ	論述問題 (300字)	1930年代のソ連・アメリカ・ドイツにおける経済政策と政治体制の特徴	当該時期の各国における経済・政治に関する基本的な知識があれば材料としては十分だが、問題が「相違」という表現で求めた比較の視点をどう答案に反映させるかがポイントとなった。	標準
Ⅳ	記述問題 短文論述問題	A 古典古代の歴史叙述 B アフリカ分割とそれへの抵抗や独立を求める動き	記述問題は答えやすかったが、短文論述問題の間(2)・(8)はやや難しかった。 近現代のアフリカ史が中心であり、短文論述問題の間(14)・(18)はやはりやや難しかった。	標準 やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。